

【更生園】

付帯意見での指摘事項	指摘事項に対する取組
<p>【個別の利用者への具体的な支援内容】</p> <p>・個別の特性に応じた日中活動支援の適切な実施</p>	<p>日中活動は、利用者さんの年齢や体力、障害特性に合わせて、従来の活動に加え社会的な位置づけのある活動や生産活動、余暇・文化的な活動も取り入れるなど充実を図り作業棟の整備を実施し職住分離を進めている。</p> <p>活動の提供にあたっては、外部通院等など急に人員が必要な場合は、施設長はじめ幹部職員や寮間の応援により活動を取りやめることなく行っている。</p> <p>従来の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドライブ～車椅子のまま乗車できる福祉車両でドライブを楽しみ、買い物や軽食、公園での散歩など行う活動 ・グループ外出～利用者さんの要望の中で、似た趣向や希望の方達のグループで遠方への外出を行い、レジャー施設の利用や観光、ホテルでの食事などの楽しむ活動 ・個別外出～ご本人の希望を取り入れた個別での外出、レジャー施設等の利用 ・音楽ボランティア～講師を招き、音楽療法を行い、音楽を楽しむ ・暑気払い、忘年会、新年会、バーベキューなどの季節行事やレクリエーション ・創作活動～季節の装飾等の作品製作 ・課題活動～分類、組み立て、マッチング等の活動 ・歩行活動～健康維持のための歩行活動 ・特浴～坐位式の特設浴槽を利用した個別入浴 <p>新たな活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽活動～ハンドベル、音楽鑑賞、朗読、音楽に合わせたボール投げなど ・リサイクル活動～プラスチックコップから覆っているフィルムをはがし、コップとフィルムに分別する活動。 ・社会貢献活動～ペットボトルキャップの回収 ・畑～ミニトマト、トウモロコシ、枝豆などの野菜作りと収穫 <p>今後計画している活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域生活を見据えて、暮らしに必要な掃除、洗濯、洗濯物干し、衣類たたみやゴミの分別など様々な生活に必要な活動に取り組んでいく予定である。

【 更 生 園 】

付帯意見での指摘事項	指摘事項に対する取組
	<p>職住分離</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日中活動の場として、社会福祉法人大久保学園代宿地域支援センターへ18名が通所している。 ・さつき寮は、以前から日中活動の場所で食事も食べており職住分離を進めていた。他の更生園の日中活動でも職住分離を進めるため、現在、児童サービスセンターが使用している作業棟等の整備を行い、活動場所を増やすことで、生活する場所と活動する場所をより明確に分離できる環境を整備している。 ・高齢で医療的ケアなど体力面で不安のある方には、歩行活動等による健康維持や特殊浴槽を使用した入浴、ドライブなど楽しみの部分の活動を中心に行うなど、高齢の方はゆとりのある柔軟な内容での対応が必要である。 <hr/> <p>更生園は重度、高齢、医療的なケアが必要なかた、強度行動障害、行動障害など利用者さんの障害特性が大きく異なる。集団で集まり意見を伝えることが現状すぐには難しい状況にあることから、慣れ親しんだ支援員により、希望や意見をくみ取り反映していく仕組みで取り組みを開始し、意見や希望が比較的伝えやすい食事や外出などについて個別での取り組みを開始した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月から個別での食事を中心に、ご本人の希望や意見を支援に反映する取り組みを開始した。 ・聞き取った内容は、栄養士に伝えて改善を図り、朝食の主食をご飯からパンに変更するなど、ご本人の意見を反映させたものもある。 ・食事での希望を支援に反映させる方法として、厨房で対応が難しいものは、外食などで反映することで、ご本人の希望に沿って対応している。 <p>意思確認方法の工夫や配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットや写真、文字、絵などを使用し、一人ひとりに判りやすい提示を行うことで、意思や希望を汲み取っている。 <p>聞き取った希望や意見は、栄養士に伝え、栄養士からの回答を得て、ご本人に結果を伝えている。意思の汲み取りについて工夫を重ねることで、ご本人に寄り添った支援を心がけている。</p> <p>今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日ごろ接する機会が多い看護師による健康管理等に関する研修会を計画している。 ・少人数や寮の代表者で集まり話し合いを行っていく方向で開催を検討していく。

【 更 生 園 】

付帯意見での指摘事項	指摘事項に対する取組
【開放性の向上と人としての暮らしの保証】	
<p>・外出の機会がごく少ない</p>	<p>・行動上の問題を抱える強度行動障害の方が多く居住する寮について、外出機会を増やすことで休日余暇の楽しみの幅を拡げ、豊かな暮らしに繋げるため、休日プログラムや活動内容の検討を行い、人員を配置し充実を図った。</p> <p>人員配置の工夫</p> <p>・袖ヶ浦市社会福祉協議会と車両の運転を行う外出ボランティアについて検討したが、車両の運転は、事故のリスクが高いことから、導入は、現状では難しい状況にあるとのことであった。</p> <p>また、施設入所支援では、行動援護等のサービスを利用が出来ないことから、休日に人員を多く配置し、手厚い支援体制が必要な強度行動障害の方の外出機会を増やす体制を整えた。</p> <p>・具体的には、施設長始め幹部職員も現場スタッフとして対応することで、土日、休日に支援員を増員するとともに、寮間での協力体制を組むことで手厚い支援体制を整え、外出機会を増やすことに繋がっている。</p> <p>外出頻度</p> <p>・強度行動障害の利用者さんが多く居住しているさつき寮では、週末は、コンビニ、ファミリーレストランやカフェでの外食、散髪、買い物、散歩など、土日は、外出中心のプログラムで外出を楽しんでいます。</p> <p>遠方への外出などは、混雑していない平日の日中プログラムの中で対応し、個別の希望に添った形で、温泉やレジャー施設、地域の行事などにも参加している。</p> <p>・さつき寮の6月の外出頻度は、一人8.5回程となっている。</p> <p>外出の行先・内容</p> <p>・以前から、ご本人の食べたいもの、行きたい場所を確認したり、興味関心のある事柄に配慮したりして、外出先や内容を希望に添ったものになるように配慮している。</p> <p>・意思の確認方法については、ご本人の理解に合わせてメニュー表や写真等を使用すると共に、一人ひとりの興味関心にも配慮し、選択する形で提示するなどして、利用者さんの意思をくみ取っている。</p> <p>* 個別の詳細な行き先や回数等の実施状況は別紙参照。</p>

【 更生園 】

付帯意見での指摘事項	指摘事項に対する取組
	<p>外出の目的に関する工夫について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 個々の利用者さんの特性や希望、年齢や体力などに配慮し、車や公共交通機関の利用やカラオケ、温泉、レジャー施設など興味関心に合わせて実施している。・ 桧寮で利用者さんからの希望を取り入れ、6月一泊旅行を実施し2名の利用者さんが参加し温泉や虫観賞、食事などを楽しみゆっくりと過ごした。帰寮してから「また行きたい」といった意見が聴かれ、楽しみ満足した様子が覗えた。・ 松寮で「寮のみんなと一緒に暑気払いをしたい」という意見があり、ホテルでの暑気払いを8月に実施することとなった。 <p>利用者さんへの影響</p> <ul style="list-style-type: none">・ 外出先で料理を食べる際に、ナイフやフォークを上手に使う様子など、日頃の生活ではあまり見ることがない姿を知る機会となった。・ 外出経験を重ね、レストランを利用できるようになるなど、外出先の幅が広がった。・ 来園する保護者の方から、出かけている姿をいつも見かけるので「元気で楽しんでいる」といった意見が聴かれている。・ 利用者さんは、外出を楽しみに待っている様子や、経験を積み、行き先や興味の幅が広がってきている方がいる。

【 更 生 園 】

付帯意見での指摘事項	指摘事項に対する取組
<p>・食事が冷たいままのものが提供される</p>	<p>温冷配膳車</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最適な温度での食事提供について、理事長はじめ支援員、栄養士と温冷配膳車の導入について検討を重ね、温冷配膳車を導入している老人施設を見学し、食事提供方法や使用している方の意見を参考に、業者によるデモ機を使用した試食を行った上で導入を進めた。 また、温冷配膳車は受注生産でもあり、電源工事等も必要であったことから、導入までの間改善を図る取り組みも併せて進めた。 <p>導入時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/29夕食から松寮、楓寮の2寮に、7/3昼食からそよかぜ荘を除く全ての寮に導入した。 *そよかぜ荘は、建物が独立していることから、車両による配食保温容器での配送を継続し、電子レンジ等で温め直し、適温での食事提供を行っている。 <p>温冷配膳車導入後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者さんからは「おいしくてうれしい」「もっと食べたい」などの感想が聴かれています。 支援員からは、「とっても良いです」「ゆっくりと食べていただいている」など全体的に「おいしい」という感想が多く聴かれています。 <ul style="list-style-type: none"> ・7/9には、県職員の方が利用者さんと昼食を食べて頂くことで、食事サービスが向上している点を確認していただいた。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・電子レンジは、以前からすべての寮に設置されており、遅れて食事を食べる方には、その都度暖め直しを行い、適温での食事提供を行っている。 <ul style="list-style-type: none"> ・炊飯ジャーについては、6/24～29の間、第1支援グループの松・楓寮に、6/9～7/3の間、第2支援グループのさつき寮で、温冷配膳車の導入までの一時期保温用として使用していた。 <ul style="list-style-type: none"> ・第2支援グループは、平成16年頃から配食保温容器を使用し、食事提供をしていた。 <ul style="list-style-type: none"> ・そよかぜ荘は、これまで同様、配食保温容器で届いた食事を、電子レンジ、トースター、IHクッキングヒーター等で適温での食事提供を行っている。

【 更 生 園 】

付帯意見での指摘事項	指摘事項に対する取組
	<p>支援員が、利用者さんと同じ食事をとるための配慮とその効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員は、食材料費のみを自己負担することで、食事を食べやすい環境に整えた。 (自己負担額は、平成29年4月分から、朝食 398円→247円、昼食・夕食 590円→365円になった。) ・食事介助度や誤嚥のリスクが高いこと、行動障害が激しく個別できめ細かく丁寧に対応する必要があることから、支援員が、利用者さんと一緒に食べることは難しい状況にある。 ・利用者さんと同じ食事を食べることで、メニューやボリューム、提供方法について、利用者さん側に立った意見で厨房、栄養士等と意見交換し、メニュー作りに反映している。 <p>食数の推移</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更生園職員の注文食数は、次のとおり推移し、職員も同じ食事を食べる環境が整って来ている。 3月 80食、4月 252食、5月 325食、6月 309食
<ul style="list-style-type: none"> ・食べる時間が限られている 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健所からの指導により、食中毒予防の観点から喫食時間の目安が示されている。 ・食事を後で食べたい方への配慮は、喫食時間を目安に個別に対応することができる。

【 更 生 園 】

付帯意見での指摘事項	指摘事項に対する取組
<p>【地域移行】</p> <p>・通過型施設としての機能</p>	<p>・付帯意見では強度行動障害支援事業利用者の地域移行については、事業開始から一人も地域移行していないとの指摘があったが、H28.3.31 強度行動障害対応の新設グループホームへ1名が移行している。</p> <p>当初2名の受け入れ申し出に対し候補者は3名いたが、2名は保護者の同意が得られず移行に繋がらなかった。</p> <hr/> <p>・その他の強度行動障害支援事業利用者さんの移行の進捗状況</p> <p>移行予定 H29.8 新設グループホーム 1名</p> <p>マッチング中 障害者支援施設（身体障害者中心の施設） 1名 新設グループホーム 2名</p> <hr/> <p>・その他利用者さんの移行の進捗状況</p> <p>マッチング中 障害者支援施設（身体障害者中心の施設） 1名 新設グループホーム 2名</p> <hr/> <p>・H29年4月から地域移行を推進する地域移行支援班を設置し、施設長、マネージャー、各グループリーダー2名の計4名で、すべての利用者さんの地域生活を検討し移行に取り組んでいる。</p> <p>主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回の定例会議に加え、随時ミーティング等で移行の進捗状況や現状での取り組みの確認、移行の進め方、関係機関等との連携の取り方等、その都度集まり協議して進めている。 ・施設見学会の企画により地域生活を知る機会を設定し理解を進める。 ・地域生活への意向の確認（ニーズ把握）、受け入れ法人への情報提供、必要な施設設備の調整、利用体験の調整、関係者会議（相談支援事業所、市町村、中核地域支援センター等）の開催、他機関との調整、アフターケアなど、移行に係る調整を行っている。

【 更 生 園 】

付帯意見での指摘事項	指摘事項に対する取組
	<p>外部有識者の提言の反映</p> <ul style="list-style-type: none">・「まずは、頑なな保護者の方の気持ちを和らげることから始めるしかない」「地域生活がイメージ出来ない状況では、具体的な移行の話に繋がりにくいのではないか」とのこと、施設見学会の開催を継続して実施することで、保護者が地域生活の実際を知る機会とした。・「実際に移行した保護者から意見を伺ってはどうか」と言った意見を取り入れて、今後、保護者会と共催の研修会で、グループホームへ移行した利用者さんの保護者から話を聞く予定である。 <p>施設見学会</p> <ul style="list-style-type: none">・平成29年度 5月フラット、6月ききょう会の2法人、2回、8名の保護者が参加・受け入れを表明している法人へ入居申し込みを行った5名の保護者が、受け入れ先法人と面談を実施 <hr/> <p>地域移行への関心について、意見の具体例</p> <ul style="list-style-type: none">・平成29年4月時点で、移行しても良い11名、受け入れ先があれば検討したい、今後検討していきたい14名合わせて、全体の3割ほどの保護者、後見人等が、地域生活へ前向きな状況になってきている。・更生園の利用を継続したいという意見が、7割程の保護者、後見人等に根強くある。見学に参加された保護者も含まれている。 <p>理由は、高齢であることや医療的なケア等で手厚い支援が必要なことから、人的配置が厚い更生園での対応を望んでいた、急激な環境の変化への適応が難しいことから地域生活への移行を望まないといった意見がある。</p> <ul style="list-style-type: none">・利用者さんの中には「更生園」の生活を続けたいと明確に意思表示する方がいる。 <p>地域生活に向けては利用者さん自身による見学や体験等を実施し、地域生活への理解を進めていく必要がある。</p>

【 更 生 園 】

付帯意見での指摘事項	指摘事項に対する取組
【相談支援アドバイザー】	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援アドバイザー 障害者支援施設施設長，支援主任，看護師
<ul style="list-style-type: none"> ・役割が専ら支援者サイドのアドバイス ・アドバイス内容の報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・更生園では，千葉県相談支援アドバイザー事業に準じて相談支援専門員等により個別の利用者状況と支援内容の確認により，アドバイス等を頂き一人ひとりの暮らしの質の向上や課題の解決にあたる事を目的に実施した。また，課題等に対する意見についてはPDCAサイクルに基づいて改善を図り，改善の状況をアドバイザーに確認頂く流れで対応した。 ・H28年度は改善の進捗状況等により実施状況を県に報告していた。 <p>H28年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害と身体障害の介助の違い，それぞれに合わせた適切な支援と地域移行に繋がるか検討頂いた。 <p>6月1名 今年度の取り組みについて打合せ</p> <p>7月3名 見学，Hさん、Kさん、Fさん計3ケース確認</p> <p>8月2名 基本情報確認，介護状況確認，相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Hさんケース，浴室での移乗が構造上無理な姿勢となっているためご本人、介護者共に負担となっているとアドバイス。 <p>9月2名 入浴状況，日中活動状況確認，アドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月のアドバイスを受け，Hさんケースで機械浴が行われている状況を確認した。 <p>10月2名 食事状況の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援度の高い利用者さんを手厚い支援配置により個別の支援がされていることが確認された。 <p>12月2名 健康状況の確認，地域生活へアドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3ケースとも身体障害者での受け入れは可能なケースとのアドバイスあり <p>1月以降は訪問日に相談支援アドバイザーが来園出来ない状況が続き，そのまま年度末を迎えた。</p>

【 更 生 園 】

付帯意見での指摘事項	指摘事項に対する取組
	<p>アドバイスによる効果の一例</p> <ul style="list-style-type: none">・8月にHさんケースで頂いたアドバイスをもとに、機械浴を利用したところ、スムーズに入浴できることでご本人の負担が軽減し、リラックスして安心して入浴されている。・Kさんケースで具体的に地域移行のマッチングを進めている。 <p>・H29年度は5月末に、相談支援アドバイザー派遣について依頼を行い、個別のアドバイスを頂くと共に地域移行を進めることで方向性を確認した。 地域移行についての千葉県の取り組み状況について確認を行った上で派遣について調整することとなった。</p>

【 養 育 園 】

付帯意見での指摘事項	指摘事項に対する取組
<p>【個別の利用者への具体的な支援内容】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童ミーティング(食事編) 各寮から代表児童を集めてミーティングを実施する。 代表者は予め次回のテーマに沿って、寮内の他児童から意見を聞いて、ミーティングに参加する。 ①平成29年3月30日実施 反映して欲しいメニューを話し合う。 次回は、「(学校の) 終了式にメニューを豪華にして欲しい」という要望から『お楽しみメニューの内容について』を予定している。 ②平成29年5月9日実施 お楽しみメニューとして要望のあった『手巻き寿司』を終了式メニューとした。 次回は、要望のあった『夏休み中の調理実習のメニューについて』を予定している。 ③平成29年6月15日実施 調理実習メニューとして、全班合同でカレー作りとする。 また、児童から要望のあったステーキ等もメニューに加えることにした。 次回は、『お月見献立』を予定している。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・児童ミーティング(健康編) ①平成29年5月2日 『手洗いについて』実施 講義形式で、手洗いの必要性、手の洗い方を学び、その後、各寮毎に看護師が薬液をつけて洗い残しがないよう手の洗い方を実践した。 児童が、それぞれ改めて手の洗い方を学ぶ機会とした。 ②平成29年7月予定 『便の形状から見る体調について』を予定している。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・児童ミーティング(余暇編) 各寮から代表児童を集めてミーティングを実施する。 代表者は予め次回のテーマに沿って、寮内の他児童から意見を聞いて、ミーティングに参加する。 ①平成29年7月予定 『外出で行きたいところ』を予定している。 <hr/> <p>言葉によるコミュニケーションが難しい児童については、寮内に写真や絵カードを使用したスケジュール表を掲示する他、外出先や余暇の過ごした方についても写真や絵カードを使用した方法で、少しでも児童の意向を汲み取れるよう支援している。</p>

【 養 育 園 】

付帯意見での指摘事項	指摘事項に対する取組
<p>【地域移行】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設長以下幹部職員が参加し、各寮の移行に向けた進捗状況の確認、今後の移行先情報、移行の推移について確認し、情報交換を月1回行っている。 ・情報集約のために統括者(サブマネージャー)を設置し、各寮からの情報を一元化している。一元化することにより、全寮の児童に関わる情報を共有化し、各リーダー等が他寮の児童の移行を念頭に置いて進めている。 ・パーソナルサポーターからも地域の情報をいただき、地域移行に活かしている。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度 施設見学の計画を立てたが、保護者の希望がなかった。 ・平成29年度 6月25日に、近在の成人入所型施設の見学を実施し、6家族6名の保護者が参加した。保護者からグループホームの見学希望があり、計画を立てる予定である。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・移行についての保護者からの具体的な意見等は、個別支援計画作成の中で聞き取りを行い、計画に反映している。 併せて、特別支援学校とは、児童毎に地域移行支援会議を開催し、ご家族の意見等の情報を共有し、進路策定に活かしている。 ・現在、過齢児も5名となり、うち3名は、移行先との検討を行っている状況である。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・「移行ワーキング会議」の中での意見を踏まえ、養育園内の地域移行推進会議の中で、更に情報を共有できるように統括者を置き、発信受信の窓口を一本化した。
<p>【開放性の向上と人としての暮らしの保証】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外出の機会がごく少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーを決めて、行きたいところをタブレット等を使用して外出場所を決めている。 ・コンビニエンスストアや公園等、近隣の外出についても、写真を提示して希望を反映している。 ・今後は、児童ミーティング(余暇編)を実施し、他寮の児童の意見も聞けるように配慮し、児童からの発信による外出場所等の提案を行う予定である。

【 養 育 園 】

付帯意見での指摘事項	指摘事項に対する取組
	<ul style="list-style-type: none"> ・外出の目的については、余暇の充実の他に交通機関の勉強や、衣類購入、日用品購入、誕生日祝い等様々に設定している。 重度の児童であっても職員が目の前に商品を並べる等の配慮をすると、自分でその内の1つを選択することができ、自己選択の機会ともなっている。 ・児童は、外出の機会が増えたことを喜んでいる様子である。 行き先を選ぶ時もととても嬉しそうにしている。 ・公共交通機関は、単独外出や職場実習通勤等で利用できるよう、事前に経路や乗換方法等を職員と確認している。
<ul style="list-style-type: none"> ・食事が冷たいままのものが提供される 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月3日昼から、さくら荘を除く1～4寮に、温冷配膳車3台（1寮，2寮，3・4寮で各1台）を導入した。 ・児童からは、ご飯が美味しい、天ぷらやフライが柔らかく、出来たてのように感じる等の意見があり、好評である。また、電子レンジの使用希望は、ほぼ無くなった。 ・電子レンジは、以前から各寮で使用している。 炊飯ジャーも同様に、3，4寮で使用して炊飯し，1，2寮では保温用として使用している。 また，汁物の温め用として，IHヒーターを各食堂に設置済みである。 ・4月以降，職員の食事申込数は，増加している。 職員の感想も給食委員会等で伝え，味付けや量等の要望を伝えている。 ・3月から，児童ミーティング（食事編）において，児童と栄養士が直接話す機会を設けている。 ミーティングの中で要望を伝え，行事食やお楽しみ食事等のメニューに反映されている。 ・職員は，食材料費のみを自己負担している。 （自己負担額は，平成29年4月分から，朝食 398円→247円，昼食・夕食 590円→365円になった。） ・養育園職員の注文食数は，次のとおり推移し，増加傾向にある。 3月 119食，4月 258食，5月 311食，6月 298食 ・職員配置等については，特段の配慮は行っていない。 現在は，同じ食事をとることを主眼として行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・食べる時間が限られている 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健所からの指導により，食中毒予防の観点から喫食時間の目安が示されている。